

日本の軍国主義への道

1926年

大正天皇が崩御し、
昭和天皇が即位

1929年

アメリカで株価が暴落

1930年

アメリカ、イギリスと
ロンドン海軍軍備制限条約を結ぶ

浜口雄幸首相が銃撃される

1931年

柳条湖事件をきっかけに、
満州事変が起こる

1932年

満州国を建国
犬養毅首相が暗殺される
(五・一五事件)

1933年

日本が国際連盟を脱退する

1936年

陸軍青年将校らのクーデターが
起こる(二・二六事件)

1937年

日本軍と中国軍が
北京郊外で衝突(盧溝橋事件)

1938年

国家総動員法が制定される

1940年

大政翼賛会が結成される

ここが知りたい!

1 都市化と大衆文化 → p.7

2 世界恐慌と昭和恐慌 → p.7

3 軍縮と軍部の不満 → p.8

4 満州事変 → p.8

5 日本の国際連盟脱退 → p.8

6 軍部勢力の台頭 → p.9

7 日中戦争 → p.9

第 一次世界大戦後の日本経済は、戦後不況と震災、世界恐慌により悪化の一途をたどります。

軍部は財政難で軍縮を選んだ政府を非難し、みずからの権力維持のため満州事変を起こします。国際連盟が日本軍に満州からの引き上げを命じると、日本は連盟を脱退します。

国内では、力を強める軍部による政府要人を狙った暗殺事件などが起こり、日本の政党政治は終わりをむかえ、軍部が国内を統制するようになります。

盧溝橋事件の現場の盧溝橋は、12世紀の終わりに建設された歴史のある橋で、マルコ・ポーロも13世紀に『東方見聞録』で美しさを絶賛しているよ

1 都市化と大衆文化

第一次世界大戦後、日本は工業が発展し、都市化が進みました。鉄筋コンクリートの建築物や交通網、電気の普及で生活は近代化し、月給制で勤務するサラリーマンや働く女性も増えました。大正時代(1912~26年)には新聞やラジオ放送が普及し、映画や大衆雑誌が発達するなど、大衆文化が花開きました。1926年に大正天皇が崩御し、昭和時代がはじまります。

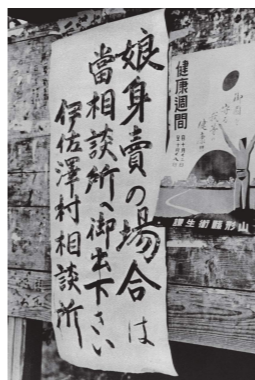


1923年、東京に完成した丸の内ビルディング(丸ビル)
写真:三愛地所

大正時代末期の給料と物価 (100銭=1円)

- 大学卒サラリーマン初任給(月額): 50~60円
- 米1升(約1.5kg): 50銭 ● ビール1本: 35銭
- うなぎの蒲焼: 30銭 ● タクシー市内料金: 1円均一
- 東京・大阪間の鉄道運賃(普通列車3等): 6円13銭

出典:『新 もういちど読む 山川日本史』(山川出版社)



生活に苦しんだ農村では、借金のためむすめを身売りする家もあった
写真:毎日新聞社/サイネットフォト

2 世界恐慌と昭和恐慌

第一次世界大戦後の不況と関東大震災によって不安定だった日本経済は、1929年にアメリカで起こった世界恐慌の影響でさらに悪化しました。アメリカへの輸出にたよっていた日本も巻き込まれ、昭和恐慌に突入します。企業の倒産や失業者が増え、都市も農村も混乱しました。

一方、三井などの財閥は、弱体化した企業を吸収して規模を拡大し、政党との結びつきを強め、政治への影響力を増していきました。

ここもふかほり! 大正時代から昭和初期の芸術

大正時代から昭和にかけて、多くの小説家たちが活躍し、多くの文芸誌が創刊されました。絵画では、岸田劉生や竹久夢二などが活躍しました。

音楽の世界では、童謡「赤とんぼ」の作曲家・山田耕筰や、童謡「シャボン玉」などの作曲家・中山晋平らが知られています。



岸田劉生「麗子微笑」
写真:国立文化財機構所蔵品統合検索システム(ColBase)



芥川龍之介
写真:『芥川龍之介集』新潮社/国立国会図書館デジタルコレクション

大正~昭和期の文学

- | | |
|--------|-------------------|
| 武者小路実篤 | 『その妹』
『友情』 |
| 志賀直哉 | 『城の崎にて』
『暗夜行路』 |
| 谷崎潤一郎 | 『痴人の愛』
『春琴抄』 |
| 芥川龍之介 | 『羅生門』『鼻』 |
| 小林多喜二 | 『蟹工船』 |

キーワード 世界恐慌

1929年にアメリカの株価暴落から世界に波及した不況。日本をふくむ多くの国で、企業の倒産、失業者の激増、物価の下落が起こった。

日本の四大財閥

巨大な資本で多くの会社をしたがえ、日本経済に大きな影響力を持った。

- | | |
|------|------|
| 三井財閥 | 三菱財閥 |
| 住友財閥 | 安田財閥 |

3 軍縮と軍部の不満

日本政府は、1930年にアメリカ、イギリスと協調して「ロンドン海軍軍備制限条約」を結び、軍事費を減らしてその予算を日本社会に役立てようとしたが、軍部は不満をつのらせます。

そんななか、浜口雄幸首相が銃撃される事件が起こります。この事件は、日本が国際協調から軍勢力重視に転換するきっかけとなり、軍部が政治への発言力を強めていきました。



立憲民政党総裁の浜口雄幸は、1929年に首相に就任し、1930年にロンドン海軍軍備制限条約に調印した。同年、東京駅で右翼青年による銃撃で重傷を負い、翌年に死去

写真：『近世名士写真』/国立国会図書館デジタルコレクション

4 満州事変

日本の軍部は、経済のたて直しとみずからの権力維持のため、豊富な資源を持つ満州（中国東北部）への進出と植民地化への動きを強めます。



現地で排日運動が激化するなか、関東軍（満州に駐屯する日本軍の部隊）は、1931年に南満州鉄道の線路をみずから爆破します（柳条湖事件）。関東軍は中国軍のしわざと主張して、満州全域を占領すると、翌年の1932年に形式的に清の元皇帝・溥儀を執政（政府の長）にすえて満州国を建国しました。この一連のできごとを「満州事変」といいます。



中国の清朝最後の皇帝・愛新覚羅溥儀
写真：サイネツフォト

5 日本の国際連盟脱退

中国は、満州事変を日本による侵略だとして、国際連盟に訴えました。中国の訴えを認めた連盟は、満州国からの日本軍の引き上げを勧告します。

これに反発した日本は、1933年に国際連盟を脱退して、中国との対立を継続し、国際的な孤立を深めていきました。



写真：サイネツフォト

1932年、国際連盟から満州に派遣されたイギリスのリットンを団長とした調査団。調査結果を受けた国連は中国の主張を認めた

6 軍部勢力の台頭

満州事変以降、日本国内の軍部の力はさらに強まります。1932年5月15日、満州国建国に反対していた犬養毅首相が海軍青年将校らに暗殺されました（五・一五事件）。

1936年2月26日には、陸軍青年将校らが高橋是清などの政府要人を殺傷し、東京の中心部を占拠したクーデター（二・二六事件）も発生しました。反乱は数日で鎮圧されましたが、軍部の力はますます強まり、政治の主導権をにぎっていきました。

五・一五事件を報じる新聞
写真：大阪朝日新聞1932年5月16日朝刊



7 日中戦争

国際的に孤立した日本は、中国東北部の支配を強めました。中国で抗日運動が高まるなか、1937年に北京郊外で盧溝橋事件が起こり、日本と中国は宣戦布告をしないまま戦争状態となりました。

中国は、アメリカやイギリスなどから物資援助を受けて、徹底抗戦をします。短期終結をねらった日本の思惑はずれ、戦争は長期化しました。



現在の盧溝橋 写真：PIXTA

キーワード 盧溝橋事件

北京郊外の盧溝橋で、日本軍の夜間演習中に発砲があったとして、日本軍が中国軍を攻撃し、日中戦争のきっかけとなった事件。

ここもふかぼり! 軍国主義化する日本

長引く日中戦争のため、政府は1938年に国家総動員法を制定し、議会の承認なしで物資や国民の労働力を戦争に動員できるようにしました。1940年にはすべての政党を解散・統合させ、大政翼賛会（12ページ）を結成します。「となり組」とよばれる住民同士が監視し合う組織をつくり、反戦的な思想は厳しく取り締まりました。生活必需品は配給制となり、物資不足と食糧難で国民生活は困窮しましたが、国家予算の多くは軍事費にあてられました。



衣料品を買ったための衣料切符
配給券がなければ物が買えない切符制になった



写真：朝日新聞社/サイネツフォト

戦時統制下の生活

1939年	政府による資金の統制、国民の軍需産業への徴用、物の値上げの禁止を公布
1940年	砂糖、マッチの購入の切符制開始
1941年	大都市で米の配給制開始
1942年	みそ、しょうゆの配給制開始、衣類の切符制開始